

エントリー名：奄美群島高校探究コンソーシアム

活動名：オール奄美で取り組む人財育成 ～南北 200 km 奄美の高大連携及び高校間交流～

解決すべき課題：「離島にある高等学校の悩み」

- ①生徒が主体的に課題を設定し探究に取り組む「総合的な探究の時間」において、大学や研究機関等による支援を求めたいが、**大学のない奄美群島では他地域よりも高大連携が困難**である。
- ②奄美群島内の各高等学校は、小規模化が進み、探究活動を発表する機会や同世代の仲間との交流の機会が減少している。また、**離島という地理条件が、学校間の交流を一層困難**にしている。
- 南北 200 km に渡る奄美群島は島間の移動にも時間がかかる。オンラインという方法もあるけれど…やはり**顔を合わせて交流する機会**は、島の高校生にとって**大きな成長につながる**。

目標・方針：奄美群島だからこそできる高大連携や高校間の交流のかたちを創出する

- ①奄美群島内の高等学校が、継続的に大学や研究機関等、所属する研究者からサポートを受けたり、連携したりできるようにするための体制を整備する。
- ②奄美群島内の高等学校の生徒が交流する機会を創出する。

活動内容

①「奄美群島高校探究コンソーシアム」の設置 (R6. 3. 15)

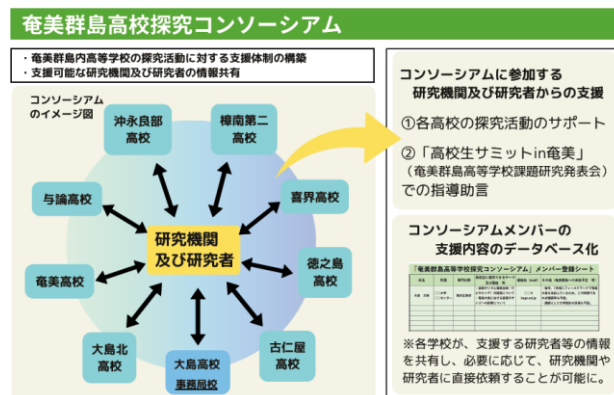
- ・「奄美群島内の高等学校の探究活動を支援可能な研究者データベースの作成・共有」

→奄美群島を研究対象としている大学や研究機関等にコンソーシアムへの参画を依頼。**研究者の情報**

(専門分野、支援可能な内容、奄美群島への来島時期、連絡先等)を一覧にして、群島内の高等学校で共有。各高等学校が必要に応じて、参画機関や研究者に直接依頼することを可能にした。

「奄美群島高校探究コンソーシアム HP」

<https://sites.google.com/kago.ed.jp/iamamiconsortium>



②「高校生サミット in 奄美」の開催 (R6. 3. 15)

奄美群島高校探究コンソーシアム構成図

- ・「奄美群島内の全ての高等学校の生徒が参加した研究発表会・生徒交流会」

→奄美群島全 12 市町村をはじめとする様々な機関・団体の支援により初の高校生サミットを開催。各高等学校の代表が研究発表し、コンソーシアムに参画している大学等の研究者による指導助言を受けた。また、生徒交流会も実施し、群島内の高校生たちが、親睦を深め、奄美の将来について意見交換した。 ※〈後援〉奄美群島全 12 市町村等〈協賛〉奄美群島の企業団体等



「高校生サミット in 奄美 PV」

https://youtu.be/_jiB0xkXA6Q



生徒交流会後の集合写真

取組の過程

○奄美群島を包括したコンソーシアムの構想

生徒が自ら課題を設定する探究活動のサポートを高校の教員だけで行うのは負担が大きい。大学のない奄美群島の各校は、地域の協力を得たり、独自に大学等と連携したりしていた。しかし、多岐にわたる生徒のテーマに対応するためには、より多くの研究者達から持続的な支援を求めたい。(奄美群島内にある高等学校の共通課題)

一方で、世界自然遺産にも登録され、豊かな自然や独自の文化・伝統を持つ奄美群島には、多様な分野の研究者達が研究のために定期的に来島している。

→奄美群島だからこそその「関係人口」に注目！

大学主催のシンポジウム等を通して、奄美に来島している研究者に相談すると、**高校生の探究活動への支援や連携に前向きな研究者が多い**ことが判明。

そこで

奄美群島の全ての高等学校の共通課題を解決するために、群島内の全ての高等学校が参画する**コンソーシアムを設立**し、奄美の高等学校を支援することが可能な研究者のデータを共有することとした。また、研究者も含め関係者の個人の意欲・熱意に頼った連携では長続きしないと考え、**より継続的な関係を築くことができるよう**、コンソーシアムには、**大学等にも機関としての参画を依頼**した。

〈コンソーシアムに参画している高校・大学・研究機関等 R6. 11 現在〉

・奄美群島内全 9 高校 ・大学等 6 機関 ※R6 年度中にさらに 2 大学が参画予定

○奄美群島発の課題研究発表会の開催を目指して～「高校生サミット in 奄美」の開催～

群島内の高等学校は小規模化し、多くの人の前で探究成果を発表する場や同世代の仲間と交流する機会は少ない。群島外で開催される各種コンテストへの参加にも多額の費用が必要。

→そこで、奄美群島発の規模の大きい課題研究発表会の開催を企画！

コンソーシアムに参画する高等学校や大学等と協議・連携し、群島内の全高等学校が参加する**課題研究発表会を開催**した。指導助言については、参画する大学等の研究者に依頼した。

発表会には群島内の高等学校だけでなく、奄美の高校生達が同世代の先進的な探究活動に刺激を受け、探究活動の質が向上することを期待し、群島外からスーパーサイエンスハイスクール 2 校にも参加を依頼した。**生徒交流会では、奄美の将来について真剣に語り合う姿があり、群島の未来を担う仲間づくりができた**ようだ。→**奄美群島内において、同世代のハイレベルな研究発表や研究者による指導助言を見学する機会を設けることができた。**

活動の成果

①「奄美群島高校探究コンソーシアム」に多くの研究者が登録

→データベース登録者数は 60 人 (R6. 5～R6. 10)。各校でデータベースを利用して、研究者から生徒の探究活動へのアドバイスを受たり、**講座を依頼したりする事例が増えている**。

②群島内の高校・高校生の探究活動へのモチベーションが向上

→「高校生サミット in 奄美」(第 2 回 R7. 3. 19 開催予定)への参加が、群島内各校の**目標の一つとなる**ことで、生徒の探究活動の充実につながっている。また、前年度の研究発表を参考にして、自らの探究を深めたり、先輩の研究の継続を希望したりする生徒も現れた。

③地域からの支援の輪が拡大

→「高校生サミット」を見学した地域の方が、群島内の高校生の探究活動や考えを知り、コンソーシアム運営のための寄付を希望する企業や団体等も現れた。

◆コンソーシアムの設立は、共通の悩みを抱える群島内の全高等学校とハンデの多い離島の高校生を支援しようとする大学等や地域の連携があればこそ実現した。**本土から遠く離れた離島の高等学校であっても、生徒達が切磋琢磨しながら未来を担う人財として成長できるよう、これからもチーム奄美で生徒の学びのサポートに努めていきたい。**